

船舶事故調査報告書

平成30年1月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委 員 佐藤 雄二（部会長）
 委 員 田村 兼吉
 委 員 岡本 満喜子

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成28年5月2日 19時30分ごろ～23時55分ごろの間）
発生場所	不明（アメリカ合衆国領グアム島東方沖～グアム島東北東方沖）
事故の概要	漁船第十八勝栄丸 ^{しょうえい} は、北東進中、機関員1人が、行方不明となり、後日、除籍された。
事故調査の経過	平成28年5月3日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第十八勝栄丸、463トン 130751、株式会社勝栄丸 61.71m×8.90m×4.15m、鋼 ディーゼル機関、1,323kW、昭和63年10月20日
乗組員等に関する情報	船長 男性 33歳 四級海技士（航海） 免許年月日 平成20年3月27日 免状交付年月日 平成24年11月1日 免状有効期間満了日 平成30年3月26日 機関員A 男性 18歳
死傷者等	死亡 1人（機関員A）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東、風速 約3m/s 海象：波高 約1m、水温 約27℃
事故の経過	本船は、船長及び機関員Aほか24人（日本国籍7人、インドネシア共和国籍10人、キリバス共和国籍7人）が乗り組み、平成28年4月21日07時00分ごろ、かつお一本釣り漁を行う目的で、グアム島東方沖の漁場に向けて静岡県焼津市焼津港を出港した。 本船は、5月2日17時30分ごろ操業を終えた後、グアム島東北東方沖を約9ノットの対地速力で北東進して次の漁場に向かった。 当直中の機関員（以下「機関員B」という。）は、23時55分ご

	<p>ろ、3日00時00分から02時00分まで当直を行う機関士及び機関員Aを起こそうと船員室に行ったところ、機関員Aがいなかったので、機関士と共に機関員Aを探した。</p> <p>航海士は、機関士及び機関員Bから、機関員Aがいなかったことを知らされた。</p> <p>船長は、機関員Aがいないと報告を受け、乗組員全員に機関員Aを探すよう指示し、本船を航行してきた経路に戻した。</p> <p>船長は、船内に機関員Aの姿が見当たらなかったため、A社及び海上保安庁に通報するとともに僚船に捜索を依頼した。</p> <p>機関員Aは、本船、僚船、海上保安庁及び海上自衛隊による捜索が行われたが、行方不明となり、後日、除籍された。</p>
その他の事項	<p>機関員Aは、平成28年4月にA社に採用され、本船に初めて乗船した。</p> <p>甲板員は、19時30分ごろ右舷側通路の船尾寄りに設置された洗濯機のところで、洗濯物を持った機関員Aを目撃した。</p> <p>機関員Aは、Tシャツ及びジャージのズボンを着用していた。</p> <p>船長は、乗組員に夜間は暴露甲板に出ないよう指示していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>機関員Aは、行方不明となり、後日、除籍された。</p> <p>本船は、グアム島東北東方沖を北東進中、機関員Aが、19時30分ごろ甲板員に目撃された後、23時55分ごろ船員室にいないことを機関員Bが気付いたことから、この間において、機関員Aが落水したものと考えられるが、落水に至る状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、グアム島東北東方沖を北東進中、機関員Aが落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務以外では、夜間、暴露甲板に出ないことが望ましい。